



ともかき

第 23 号

発 行：妻垣神社社務所
宇佐市安心院町妻垣 203 番地
発行日：令和 3 年 3 月 23 日
電 話：0978-44-2519
<http://www.tumagakijinnja.com>

秋季大祭に併せて新型コロナウイルス感染症罹患防止祈願祭を斎行。 氏子崇敬者と共に早期収束を祈る。

私の病がこうして治ったのも腕の良い医者の手当てと神のおかげです
おかげさまでいくらでも長生きできそうです

ここの賢き人々のおかげで病が治り神のおかげまで乞うてくれました
以て私はここに扁額を書いて掲げます

妻垣神社の楣上にて
文久元年九月秋
米之倉

世界中で猛威を奮う新型コロナウイルス感染症。一年が経過しても尚、多くの罹患患者・死亡者が増え続けています。今春に入りようやくワクチン接種も始まり、少しずつではありますが希望の光が見え始めています。
さて当社拝殿左側には漢文で書かれた横長の大量が掲げられています。「疾」「醫(医)」という字から、病氣治癒の御礼の奉納額と推測していましたが、長い間、詳細は不明でした。そんな折、昨年七月、大分市より坂本さん家族が参拝になり、書に精通する坂本氏より額の意味やその素晴らしさを教わりました。
口語訳は次の通りです。



一六〇年の時を越えて解明
先人からのメッセージ

（ 醫術と醫術 ）

奉納品紹介



疫病退散のぼり(10枚)

大分市府内町
(株)太田旗店

会長 太田 光則殿

「医」の話に感銘を受けた太田会長が、それぞれわかりやすい言葉にして奉納下さいました。

江戸時代後期も疫病が蔓延

額が奉納されたのは今から 160 年前の文久元年(1861)、時は幕末。アメリカを始めイギリス、ロシアと異国の艦隊が開国を目的に日本に來航していました。外国からは珍しい文化等が入ってきましたが、それと同時に、人を通じて疫病も入ってきました。「コレラ」です。和名は「コロリ(虎狼痢)」といい、感染するとコロリと死ぬ恐ろしい病気でした。九州には長崎出島があるため、いち早く感染が拡大し、この地でも多くの人が亡くなりました。この他に「はしか」も大流行したとも記録されています。

今の私たちに伝えるメッセージ ～「醫術」と「鑿術」～

奉納者は未だ不明ですが、医者と里の人々は治療と看病を施すと同時に、神社に詣で病氣平癒の祈願をしました。その甲斐あってか病は治り、この額が奉納されたのです。額には2種類の「医」が刻まれています。まず1つ目の「醫」は医療技術のことを指します。今に繋がる医療は多くの犠牲と人々の努力のおかげによって進歩しており、今も医療従事者の努力と技術により多くの命が救われています。次の「鑿」は神の御神威とされ、精神的治癒を表わします。人は見えない存在にすがろうとします。病んでいれば尚更です。今回のコロナは後遺症が残るケースがあり、元の生活に戻るにも時間がかかります。周囲からの偏見や風評に晒されたりもします。またマスクの着用など感染予防や自粛生活も長くなるにつれストレスが溜まり、身体を壊す人が増えています。医療は基本的に肉体のみの治療です。神の御力による心の治癒と対でなければ完璧な治癒とは呼べないとこの額は示しているのではないのでしょうか。コロナが蔓延するこの時期に、160 年前の疫病や額の意味が解明されたことは、偶然とは思えにくいように思われます。

書の撰者「米之倉」とは 賢人 米良東嶺

名は米良倉。通称は倉次郎。日出藩木下家の儒学者帆足萬里に入門し、帆門十哲の筆頭となる。日出藩校致道館の教授、慶応4年には日出藩家老を務めた。享年61歳。

日々の祈りは絶えず続く コロナ収束を願って多くの人が参拝



当社では元旦午前零時より一年の平安を祈って大祈願祭を斎行します。そして、老若男女全員が大前に進み、玉串を捧げて参拝します。当社の誇るべき伝統です。ただいつもと違うのはマスクをつけての参拝です。こんな時もあったと、いつか笑って話せることを願うばかりです。

コロナ禍は当社にも様々な影響を与えました。参拝者の減少を始め、年間の祭典は規模を縮小して実施。最も賑わう秋季大祭も全ての神賑行事を中止とし、年末恒例のしめ縄作りも本年四月まで延期としています。

このような中、新年を迎え、全国では感染拡大に伴い初詣の参拝者が減少との報道の中、当社はありがたいことに通年以上の参拝者数となりました。コロナ禍の中において、多くの方にお参り頂いたことは、日々の氏子による神社護持、そして大神様の御神威の他ありません。

当社では元旦午前零時より一年の平安を祈って大祈願祭を斎行します。そして、老若男女全員が大前に進み、玉串を捧げて参拝します。当社の誇るべき伝統です。ただいつもと違うのはマスクをつけての参拝です。こんな時もあったと、いつか笑って話せることを願うばかりです。

当社ではコロナウィルスが収束するまで、恒例祭に併せて鎮静祈願祭を続けて参ります。



コロナ収束を願う多くの絵馬

上皇陛下の御譲位に伴い、令和元年五月一日、新たな御代となり、皇室では一代に一度の重儀「大嘗祭」を始め御即位に伴う一連の儀式が約一年かけておこなわれました。

当社においても皇室の儀式に併せて各奉祝祭を斎行。そして昭和、平成同様に記念事業を実施し、当初の計画以上の事業ができました。これを受け、昨年十二月二十日には「記念事業完遂奉告祭」を斎行し、御奉賛頂いた皆様の名前を認めた芳名帳を御神前に奉献致しました。

コロナ禍という先の見えない不安の中にも関わらず多くの奉賛金をお寄せ戴いたことは、ひとえに妻垣神社への普遍的な篤い崇敬の表れかと思えます。当社は明治以降、為政者の庇護はなくなり、戦後は国の管理下からも外れ、財政面は厳しくなりました。そのため、傷んだ箇所を修理し、場所によっては継ぎはぎの部分もあります。このことは当時の人が出来る範囲の中で、最大限神社を護ってきた証に他ありません。

我々はその意思を受け継ぎ、次の世代へと引き継いでいきたいと考えています。ご奉賛頂いた皆様、本当にありがとうございます。

令和御大典記念事業 おかげをもって完遂

令和御大典記念事業 収支決算報告

期間 令和元年10月1日～令和2年12月31日

収入

奉賛金 氏子地区	1, 271, 500円
崇敬者	740, 000円
神社積立金	700, 000円
神社一般会計（御大典の部より）	118, 114円
合計	2, 829, 614円

支出

記念事業

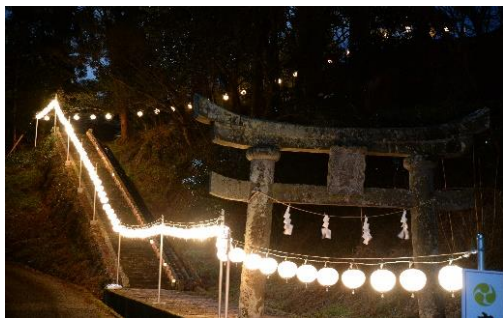
一 拝殿・南門修繕工事	715, 000円
二 参道提灯支柱配線新調工事 (支柱はステンレス製を使用)	1, 880, 000円 施工 ニノミヤ不動産建設
三 奉賛金芳名板	60, 500円
四 令和御大典記念提灯30基	104, 390円
五 令和御大典記念写真集	61, 839円

事務費（振込手数料・送料他）	7, 885円
合計	2, 829, 614円

総代長の手により「芳名帳」が神前に奉献



参道提灯支柱配線新調



拝殿 腰板新調・床板腐食箇所取替

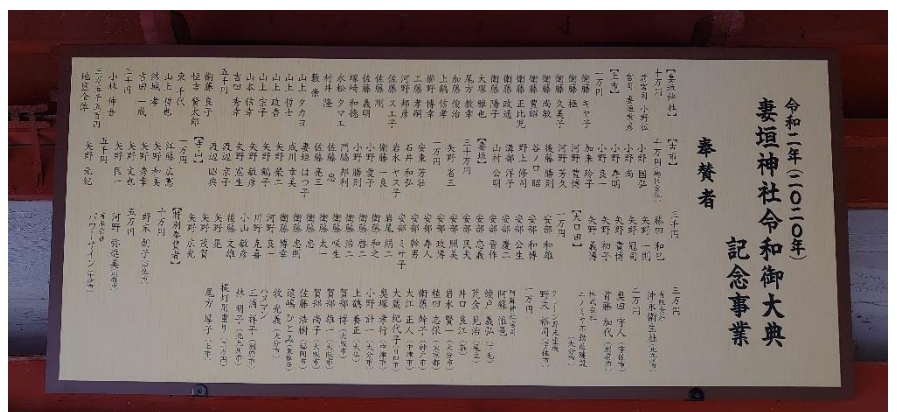


記念写真集「悠久の共鑰山」

四季折々の風景や神社の恒例祭を一年かけて撮影しました。



芳名板は拝殿西側に掲げています



『日本書紀』

編纂 1300 年を迎えて

令和 2 年 (2020) は我が国最初の正史『日本書紀』(養老 4 年 (720)) が編纂されてより 1300 年目となりました。書ではここ安心院に由来する記述が 2 カ所登場し、神武天皇の東征 (前号で紹介) と、第 12 代景行天皇の熊襲征伐のお話です。

景行天皇 12 年 (82 年) 8 月、朝廷に背く南九州の熊襲を征伐すべく、天皇御自ら兵を率いて西下され、周芳の娑婆 (山口県防府) に辿り着いた時、豊前国より女酋神夏磯媛が投降してきました。

女酋が言うには「どうか兵を送らないで下さい。今すぐに帰順致します。ただ悪い賊たちがいます。なかでも菟狹の川上 (安心院) にいる鼻垂という賊は勝手に君主を名乗り山谷に人を集めています。この他にも御木の川上の耳垂、高羽の川上の麻剥、緑野の川上の土折猪折がおり、この 4 人はそれぞれ要害の地を拠点にし、仲間を集めて一所の長となっています。皆が皇命には従わないと言っています。どうか急ぎ討伐して下さい」と上奏しました。

そこでまず麻剥に赤い服や褌、様々な珍品を与え、他の 3 人も呼びよせたところをまとめて誅殺しました。その後、皇軍は各地を平定しながら南下し熊襲を征伐しました。

【巻第七 景行天皇十二年九月戊辰条】



鼻垂族が拠点にしていた仙の岩周辺

(宇佐市安心院町鳥越)

当社から車で 3 分のところにあり、春は桜の名所としても知られる。深見川を挟んだ向かい側の山の中腹にはねぐらにしていた洞穴や貝塚が出土している。

茅の輪くぐり
茅の輪は七月下旬まで設置



夏越大祓祈願祭のご案内 6月27日(日)午後 3 時

夏越大祓式とは知らず知らず身に付いた半年の罪汚れを祓い清め、これから迎える暑い夏を元気に過ごすために、先人があみだした伝統ある神事です。

当日は疫病などを祓う力を持つ茅で作った「茅の輪」が設置されます。祈願祭は無料です。是非ご参拝下さい。(コロナ対策を実施していません)



潮搔神事

当日汲んだ潮水で
心身共に浄めます

奉納品紹介

し しん が く 四神額



北 西 南 東

玄 白 朱 青
武 虎 雀 龍

四神とは天の四方の方角 (東西南北) を司る霊獣であり、中国より伝わる。日本では平城京・平安京造営などに大きく影響を与えた。

中津市上宮永

(有)パワーサイン 衛藤 研司殿